

名理会だより

<https://meirikai.wp.tcp-ip.or.jp/>

令和6年9月13日
名古屋市理科教育研究会
第112号
事務局 広報係



名理会「夏季研修会」が開催されました



8月2日（金）、昭和橋中学校にて、名古屋市理科教育研究会夏季研修会が開催されました。

名古屋市理科教育研究会 会長 伊東 章二 先生より、ご挨拶をいただいた後、全体会、分科会、交流会が行われました。

全体会では、4人の先生から提案がありました。子どもたちの主体的な学びを引き出す方法を、それぞれの先生が多面的なアプローチで行っていました。その後の、研究協議では、「ワークシートにはどのように書かれていましたか」「児童の話し合い活動の様子はどのようになりましたか」などの質問により詳しく児童の変容を聞くことができ、発表を聞いた参加者は研究の有用性を強く感じる事ができました。

【 提案者と研究テーマ（全体会） 】

提案	提案者	研究テーマ
提案 1	梅里 優一 先生 (なごや小)	見通しをもって学習を進める児童の育成
提案 2	山田 晃弘 先生 (当知小)	理科のできるキャリア教育 ～見通しをもって実験に取り組む児童の育成～
提案 3	有田 尚未 先生 (香流小)	学習内容を深く理解することができる 児童の育成を目指した理科学習
提案 4	小神 悠揮 先生 (赤星小)	学習を調整する児童を育てる理科学習



【全体会の様子】

全体会の最後に、義務教育課 指導主事 村松 正建 先生から指導・助言をいただきました。なごや学びのコンパスが正式発表されてから約1年が経ち、子ども中心の学びを促進させる必要があることを改めて強調されました。その点で、どの提案も子どもたちが自ら考え、問題を解決する力を育むことを重視しており、とても意味のある発表であったと述べられました。

【 提案者と研究テーマ（分科会） 】

区分	提案者	研究テーマ
第1分科会	柏木 麻友美先生 (志段味中)	理科の楽しさを感じられる生徒の育成
	國嶋 慎吾 先生 (東港中)	見通しをもってデータを集め、 科学的に分析することができる理科学習
第2分科会	石野 幹 先生 (なごや小)	問題解決の道筋を構想し、自ら学びを進める児童の育成 ～問題解決の道筋を視覚化した実験ルートブックの活動を通して～
	佐藤 和希 先生 (山王中)	粘り強く学習に取り組む理科学習
第3分科会	仲尾 翼 先生 (瑞穂小)	自然を愛する心情を育てる理科学習
	小原 和樹 先生 (日比津中)	科学的に課題を解決しようとする生徒の育成 ～予想を振り返り、考察へつなげる理科学習～
第4分科会	酒井 貴史 先生 (新栄小)	児童が主体的に問題解決に向かう理科学習 ～「調べたい」を引き出し、「やってみよう」を追究できる工夫～
	鬼頭 大樹 先生 (富田中)	課題解決し、できる喜びを味わう生徒の育成



【分科会の様子】



【交流会の様子】

それぞれの分科会ごとに、2人の先生に提案をしていただきました。質疑・応答、指導・助言により、提案者も参加者も学びが深まりました。

また、今年度も、分科会終了後に交流会が行われました。提案者はもちろん、実践を陰で支えた指導者や協力者の方々が、一緒になって研究の労をねぎらい、交流を深め合うことができました。

< 全小理愛知大会実行委員会より >

令和7年度に開催される全小理愛知大会に先立ち、本年11月16日(土)に、なごや小学校・瑞穂小学校・船方小学校の各会場校にて、全小理愛知大会プレ大会が開かれます。このプレ大会に向けて、6月には各会場校の代表授業者による授業実践が行われ、指導講師の先生方からご指導をいただきました。愛知大会が掲げる「理科を学ぶ幸福感」

「主体的で子ども中心の学び」についてご賛同いただくとともに、その実現に向けて様々な角度からご助言をいただきました。また、夏季休業



【船方小での検討の様子】

中には、プレ大会で行う授業について、会場校の先生方と研究部員による検討会が開かれました。各会場校にいる名理会会員が中心となり、各校の研究テーマに基づいた指導の工夫について議論がなされました。実行委員会の総務部・会計部・出版部においても、プレ大会に向けた細部に渡る計画が練られています。大会本番はすぐそこまで近づいてきています。

< 実践研究部の活動「授業公開」について >

- 1 日時 10月25日(金) 5時限目 13:00~13:45
- 2 場所 港区 港北中学校
- 3 内容 授業公開 13:00~13:45 研究協議 13:55~
学年および単元 中学校1年生「光の性質」
授業者 港北中学校 佐藤友哉先生
- 4 授業の紹介



本実践では、「単元内自由進度学習」を取り入れて、生徒が主体的に学習に取り組むために必要な資質・能力を育成できるよう単元構成を工夫します。本時は、単元の最初に示された課題を解決するために、光の反射や屈折、凸レンズの働き等の既習事項を踏まえた上で、自分のペースで学習を進めます。獲得した知識や経験を用いながら、課題の解決に向けて試行錯誤しながら取り組んでいる生徒の姿をお示しできればと考えます。

実践研究部は中学校理科に携わる会員のニーズに寄り添った授業づくりのサポート、授業力向上を目指して活動しています。1学期には3回、秋の授業公開に向けた準備・検討を中心に進めるとともに、日ごろの理科授業の相談など、授業実践について相互に学び合いました。活動の様子は、名理会のHP(右上の二次元コード)の「名理会実践研究部『みんなで創る理科授業』」に紹介しています。

実践研究部会に参加してみたい・授業公開を参観したい方は、これまでの参加者に直接連絡するか、こちらの申込フォーム(右下の二次元コード)にて参加表明してください。日時など、詳細をご連絡します。

